

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大崎市立田尻中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒989-4308

宮城県大崎市田尻沼部字早稲田15番地

E-mail : osaki_tajiri-jh@educ.osaki.miyagi.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 169名 女子 148名 合計 317

名

児童・生徒の年齢 13～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページ
については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNESCO
Associated
Schools

本校学区内には、ラムサール条約で指定されている蕪栗沼や、日本の国蝶であるオオムラサキが生息している加護坊山などがあり、自然環境にめぐまれている。また、自然との共生の中で水稲の栽培を進めている「冬水田んぼ」や、減少しつつあるメダカを飼育し増やそうと取り組んでいる「メダカの郷」などがあり、生物の多様性への係わりが深い地域でもある。このような地域の特性を生かし本校では、環境教育を推進している。

本年度は「第4回ユネスコスクールE S Dアシストプロジェクト」を活用し、環境教育の一環として、①「グリーンウェーブ」への参加、②環境講話の実施、③環境体験活動の実施、④ビオトープの保全・管理などに取り組んだ。

活動の実際

I グリーンウェーブへの参加

1. 目的 国連の生物多様性条約事務局が企画している「グリーン・ウェーブ2013」に参加することにより、地球環境についてグローバルな視野を持たせると共に、地域自然保全活動への興味・関心を深めさせる。
2. 日時 平成25年5月22日(水) 9:40~11:20
3. 場所 大崎市立田尻中学校 校舎北側花壇(ビオトープ周辺)
4. 参加生徒 第1学年生徒104名
5. 指導計画
 - 5月15日(水) 目的, 主旨, 当日の活動についてなど事前全体指導(6校時)
 - 5月22日(水) 当日(開会式・植樹・ヒマワリの植え)
 - 5月22日(水) 体験をもとに自然保護・環境保全のためにできる努力についての感想文を書かせる。(6校時)
6. 活動の様子 植樹樹木 ヤマハギ15本 ヒマワリの種約250粒



7. 生徒の感想

- ・ 今日のグリーンウェーブで改めて、植物の大切さがわかりました。植えたのは萩とヒマワリです。早く大きくなってほしいなと思います。今日の活動をみんなできて楽しかったし、学ぶこともたくさんありました。
- ・ このグリーンウェーブは世界の恒例行事で、森林を大切にするためにやることです。僕は今日のグリーンウェーブで、もっと森林などを大切にしなければならないということ学びました。これから花や森林などを大切にしていきたいです。
- ・ 今日1年生が世界的な行事グリーンウェーブに参加できてうれしかったです。今日活動して、改めて緑の大切さを感じました。私はヒマワリの種を4つ植えました。植えた後は、草取りをしたり前に植えたパンジーに水やりをしました。今日植えたヒマワリがこれから咲くのが楽しみです。
- ・ 今日行ったグリーンウェーブは天気も良く、1年生全員でヒマワリの種を植えることができよかったです。種を植えた後の草取りも各自頑張っていました。今日の体験をきっかけとして、今後も緑を植え続け、緑を大切にしていきたいと思いました。グリーンウェーブはとてもいい体験でした。そしてヒマワリも元気に育ってほしいです。

II 環境講話の実施 (全校生徒対象)

1. 日時 平成25年6月3日(月) 5・6校時
2. 場所 田尻中学校体育館
3. ねらい ・地域の自然や環境に関心を持たせ、自然や



環境を保全する意義への理解を深めさせる。

- ・ふるさとの自然を愛し、住みよい生活環境を築こうとする心情と態度を育成する。

4. 講師 燕栗ぬまっこくらぶ 伊藤 のぞみ さん

5. 演題 「燕栗沼について」

6. 生徒の感想

- ・ 燕栗沼は、日本全国の中でもたくさんの水鳥が飛来する場所なのだとわかりました。毎年たくさんの渡り鳥を見るけど、それはこの地域限定のあたりまえで、他の地域ではあたりまえでない風景なのだと知り驚きました。
- ・ 燕栗沼のことや自然のしくみについて教えて頂き、改めて燕栗沼や自然を大切にしなければならぬことがわかりました。将来私たちが守っていかなければいけないこともわかりました。
- ・ 私はマガンについてあまり知らなかったのですが、普段の生活では、何の関心もなく過ごしていたのですが、今回の講話でたくさんを知り、マガンについて関心を持ってました。4000kmの距離を渡ってくるのすごいなと思いました。そのほかにも燕栗沼に住んでいる動物や昆虫、魚、植物を知れて本当によかったです。
- ・ 身近にある燕栗沼が、日本有数の湿地帯で13万羽ものマガンが飛来するなんて知らなかった。これからは故郷の大崎市を大事にしていきたいと思った。

Ⅲ 環境体験活動の実施 (1学年)

1. テーマ 「郷土の環境を調べよう」

2. ねらい

- (1) 田尻地域の自然環境や産業に対する意識を高めさせ、地域社会の環境や産業に興味関心をもたせる。
- (2) 環境や産業に関する各自の課題追求を通して、ふるさとの自然や産業を見つめる力を身につけさせ、環境や産業を理解する態度と実践力を身につけさせる。
- (3) 図書の活用やインタビューなどさまざまな方法により、情報を収集・選択できる力を身につけさせる。
- (4) 課題や調査内容によって発表の形態を考え、より効果的に自分の考えを表現できる力を身につけさせる。

3. 学習を通して育みたい力

- (1) 課題を設定する力
- (2) 課題を解決しようとする意欲・態度
- (3) 学習目標を設定し、動機や理由を説明する力
- (4) 計画をもとに実行する力
- (5) 体験、調査学習を通して、自分の学び方を高める力
- (6) 学んだことを自分の考え方や生き方に取り入れる力
- (7) 環境を保全しようとする態度・実践力

4. 学習の方法

- (1) 学習スキルの習得によって、課題を設定していくための基礎を体験する。
- (2) 各自が興味・関心のある分野から課題を設定し、調査活動希望場所をしぼる。
- (3) 個人でテーマを設定し、調査活動や体験活動をする。
- (4) 調査活動や体験活動の後、課題の見直しをする。
- (5) 調査結果をまとめ、レポートを作成する。
- (6) 振り返りをする。

5. 学習内容

- (1) オリエンテーション 学習スキル (2時間)
 - ・本学習のねらい ・郷土理解学習の概要
 - ・課題設定の方法 ・計画作成の仕方 ・レポート作成の方法
- (2) 環境講話 (2時間 全校生徒対象)
 - ・講師 燕栗ぬまっこくらぶ 伊藤 のぞみ 氏
 - ・演題 「燕栗沼について」

燕栗沼



- (3) 課題設定 グループ編成 課題追求 (4時間)
 - ・個人のテーマ決定 ・グループの組織決定 ・調べ学習
- (4) 調査活動 (4時間)
 - ・訪問, 調査活動
 - ・研修地及び内容

- ① 栗沼 講話・散策・調査
- ②メダカの郷 講話・見学・作業
- ③加護坊山, ロマン館 講話・見学
- ④ジャージー牧場 講話・見学・体験
- ⑤史跡巡り 施設見学・講話

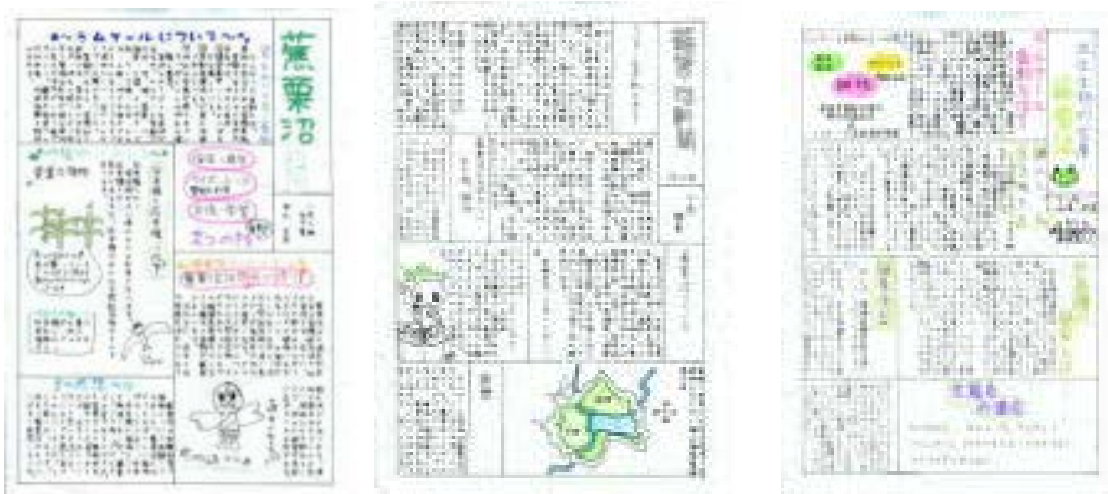
メダカの郷



- (5) まとめ (3時間)
 - ・レポートの作成 ・振り返り

6. 生徒のレポート 例

IV ビオトープの保全・管理



本校では、環境教育の一環として、校地内にビオトープを形成している。ねらいは、自然と身近に触れあえる場の提供、微生物の育成と観察、生態系の教材化などである。

ビオトープとは本来、人の手をかけずに自然の状態を保つべきであるが、存続させるために、保水をししたり、増えすぎる水草を間引いたり、入り込む土砂を防いだりするなどの保全・管理を行っている。



平成21年5月



平成23年5月



平成26年2月

成果と課題

- ・ 成果として、生徒は、地域の環境保全に携わる方々の話を聞いたり、自分たちで調べたり、実際に体験したりすることによって、地域の自然環境のすばらしさを知ることができ、環境を保全していくことの大切さを学ぶことができた。また、自分たちの生活

と地域環境との関わりを意識することができた。

- 課題としては、今後、さらに発展させ、身近な環境問題に関心を持ち主体的に解決に取り組むことができたり、環境保全に関する知識・技能や思考力・判断力を高めさせたりするような手立てを講じていくことである。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（)